

往時をしのぶ、浅川氏の青葉城跡

ゆるやかな車道を登った先に城山の頂上がある。浅川町の中心部から北東の約1kmにある城山は標高四〇七m。地上からの高さが約一〇〇mの、やや小高い丘といった風情がある。その山頂からは、安達太良山、那須連峰、八溝山系の美しい山並みが眺められ、眼下には浅川の田園風景が広がる。城山公園としては親しまれ、まちの人々はもとより、周辺からも多くの人が訪れるこの地は、古くから歴史や文化の中心になってきた。

戦国時代には、地域一帯を支配した石川氏の一族である浅川氏の居城、青葉城があった場所でもある。築城された年や築城した人物などは特定できないが、史料からは平安時代末期の康平年間（一〇五八〜一〇六四）に築城されたと推察される。時代が移って安土桃山時代には、天正一七年（一五八九）に伊達政宗の奥州遠征に際して、伊達方の前線に立つて戦ったことから、翌一八八年に豊臣秀吉の「奥州仕置き」によって領地を没収されるまで、浅川氏の支配は続いた。

いまは青葉城の姿はないが、山頂に広がる平地がわずかに本丸跡をしのぼせる。城山という名も青葉城が山稜の傾斜を利用した要害の地をなす「山城」の典型であったことに由来するといわれている。

の森からの招待状

八溝連峰や那須連峰を一望する生活環境保全林・城山公園

木漏れ日が差し込む森に香る土や草の匂い。
懐かしい郷愁にも似た、遠い日の記憶、忘れかけていた風景……。
都会ではけっして味わうことのできない、ふるさとのおたたかさがここにある。
いつの時代も浅川のまちを見守り続けてきた城山は、生活を潤し、心に安らぎを与えてきた。
このままの姿を子どもたちに受け継いでいこうとする人々の想いは深い。

鳥になって、浅川を知ろう④

耳を澄ませば虫たちの息づかいまでも聴こえてきそう。そんな静かで穏やかな光景が、城山のそこかしこにあふれている。

